

優
秀
賞

明日へ命をつむぐ



鹿島中学校 三年

佐藤 美友



今、この瞬間も爆撃によって命を落とす人々がいいます。

あなたは、考えたことがありますか。なぜ、人間が人間を、罪のない人々を殺すのかを。日本に生まれた私たちだから。紛争のない国で生きる私たちだから。

最も紛争の被害を受けるのは、大人ではありません。子供です。何人もの子供が空爆や銃撃に巻き込まれて、命を落としています。それだけではなく、多くの子供たちが親や兄弟を失う経験をし、一生癒えない傷を心に負ってしまっているのです。何も悪いことをしていないのに。

紛争下の子供たちは、紛争しか知りません。生まれた頃から紛争と共に生きています。だから、子供たちにとって、争いをする日々は当たり前なんです。人を殺して当たり前なんです。子供たちの未来はきつと、今と何も変わらない

でしょう。争いを繰り返しては人を殺します。今度は、自分の子供を苦しめます。その子供もまた、人を殺していくでしょう。生きることができたとしても。

小学生の頃、NPO法人の方と共に、募金したり文房具を集めたりしてベトナムの子供たちに寄付活動を行いました。その際に、NPO法人の方から聞いたことをお話しします。一人の男の子に「将来の夢は？」と質問したそうです。私は、言葉を失いました。男の子の夢は「大人になること」だったのです。希望する職業に就く。賑やかな家庭を築く。そんな希望に満ちた夢を抱いている私たちは幸せなんです。今日、眠りにつくことができるだろうか。明日、目を覚ますことができるだろうか。彼らはそんな思いで一瞬一瞬を生きています。いつ命を落とすかわかりません。今かもし

れません。あなたは、そんなことを考えたことがありますか。私たちは幸せです。どんなに辛い時も、悲しい時も、そばには家族や友達がいいます。食べ物があれば、服もあります。それでも私たちは、納得がいかなければ他人を憎みます。家族だろうと、友達だろうと。更なる幸福を求めているのです。私は自分が怖い。気づかぬうちに、自分を正当化して誰かを傷つけているかもしれないから。そんな私に比べ、子供たちは純粹です。なぜ、純粹で罪のない子供たちが、大人の手によって命を落とさなければならぬのですか。宗教や民族、文化の違いがそんなに大切ですか。お願いです。もう、子供たちの未来を奪わないでください。

武力は何も解決してはくれない。紛争は、無駄でしかない。私はそう思います。子供である私ができることではないということは、分かっています。戦場でこんなことを言うのも通用しないことも分かっています。しかし、もし、紛争をしている時間に子供たちが学校に通って、様々な人間がこの世界にいることを知り、学ぶことができたなら、紛争なんて起きないではありませんか。子供が死ぬ必要なんてないではありませんか。政治家や、大人の方々からすれば、そんな簡単な話ではないのかもしれませんが、では、皆さんの心に「子どもたちを救いたい」という気持ちはあるのですか。どこかで、子供たちを支援したいと思ったこ

とはありますか。私は、思います。どんな形であったとしても助けたいと。分かっています、私の力ではどうにもならないことを。何も変えられないことを。それでも、救いたいという気持ちは持ち続けていたのです。私たちは、兵士として戦っていたのかもしれないのですから。ベトナムで、シリアで、アフリカで。空爆に遭っていたかもしれないし、親や兄弟が殺されていたかもしれないのですから。多くの大人は言います。「どうしようもない」とか「もう無理」とか。そのような簡単な言葉で終わらせてしまうことは間違っていると思います。

ユニセフ（国連児童基金）の推計によると、二〇二一年時点で、難民となった子供の数が三六五〇万人を超えています。三六五〇万人の子供たちが生と死の境界を歩いています。これ以上、このような辛い目に遭っている子供を増やしてはいけません。

紛争は、誰も笑顔にしない。大人が変わらなければ何も始まりません。私のスピーチを聞いてくださった皆さん、どこかで目を通してくださった皆さん、見えないところで苦しんでいる子供たちがいることを忘れないでください。

お願いです。もう、子供の命を奪わないでください。